まいわし対馬暖流系群の資源再建計画の検証について（資料3－3）

- まいわし対馬暖流系群については、令和2年度の資源評価において、親魚量が限界管理基準値を下回る状態にあると判断されたことから、令和3年（2021年）に資源再建計画を策定した。
- 現行の措置は、親魚量が令和13年（2031年）に50%以上の確率で目標管理基準値を上回る措置として、資源管理基本方針の別紙2に規定されている本資源の漁獲シナリオに基づいて管理を行うこととしている。
- また、計画策定後、少なくとも2年ごとに資源評価に基づき達成状況の検証を行うこととしている。

令和5年度資源評価結果

将来の平均親魚量（万トン）

β	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2031年に親魚量が限界管理基準値（46.5万トン）を上回る確率	2031年に親魚量が目標管理基準値（109.3万トン）を上回る確率
1.00	38.6	69.0	85.1	100.1	107.6	110.6	110.6	110.4	110.5	110.4	98%	43%
0.80	38.6	69.0	85.1	104.9	117.8	124.8	127.3	128.5	129.3	129.6	100%	61%
0.75	38.6	69.0	85.1	106.2	120.5	128.6	131.8	133.4	134.5	134.9	100%	66%
0.70	38.6	69.0	85.1	107.5	123.2	132.6	136.5	138.6	139.9	140.5	100%	70%
現状の漁獲圧	38.6	69.0	85.1	96.4	100.1	100.4	98.8	97.6	96.9	96.3	93%	30%

- 最新の資源評価の結果、以下の結果が示された。
  - ✓ 現行の資源再建計画の措置を継続することで、令和13年（2031年）に50%以上の確率で目標管理基準値を上回る。
  - ✓ 直近年の親魚量（38.6万トン）は、禁漁水準（6.6万トン）を上回っているものの、目標管理基準値（109.3万トン）を下回っている。
- 以上を踏まえ、現行の資源再建計画の措置を継続することが妥当と考えられる。